

志の公認会計士

久野康成の

「私なら、こうする！」

第41回

非常識な実践経営アドバイス



Question

今の職場では海外で働けないので、青年海外協力隊として経験を積みたいのですが……

(東京都 26歳 女性)

Answer

新興国で働くには強い
精神力と体力が求められる

日本の人口減に伴うマーケットの縮小を考えれば、日本企業の新興国への進出やM&Aによる直接投資は、今後も増加の一途をたどることでしょう。このような現状を考えれば、今後企

業は海外実務経験のある人が不足してくるのは明白です。さらに新興国で働くためには、第一にタフさが必要です。

ただ英語が話せたり、専門技術を持っているだけでは対応できないことがあります。その国の厳しい生活環境に耐え、順応できる精神力と体力が要求され

るのです。これは、先進国に進出するケースと決定的に異なるところで、駐在員に要求される負担は、はるかに大きなものになります。

今の職場では、海外で仕事をする機会がないため、会社を辞めて青年海外協力隊として、海外実務経験を積むことは、ある意味、理にかなったことかもしれません。

かつて、当社でも青年海外協力隊としてアフリカに行きたい

と申し出た社員がいました。彼は私に、アフリカに行つて多くの人に貢献する夢やミッションを熱く語りました。そして、将来は、アフリカでBOPビジネス(Bottom of the Pyramid、貧困層を支援しながら、購買力を持った消費者に変える事業)を行いたいとも語りました。

私が「あなたの親は、アフリカに行くことに対して何って言っているのか？」と尋ねたところ、親からは「自分の人生だから、自

分で決めたようにやれば良い」と言われたそうです。

確かに、そのような生き方もあります。自分の人生は、自分で決めるべきです。他人が口を挟むものではないかもしれませぬ。しかし、私は反対しました。

第1に、今までのキャリアが完全に分断されてしまうことです。今後のキャリア形成の上で、アフリカでの2年間がマイナスに働く可能性をどれだけ検討しているのかが不明確でした。キャリアの分断は、専門家になる上で決して好ましいものではありません。

第2に、自分を優先し過ぎる志向性です。アフリカから帰り、再就職をする時に、いくら社会貢献がしたいという思いがあつたとはいえ、「自分のやりたいことをやる」という志向が、本当に面接官に受け入れられるのかが疑問でした。もし、私が面接官であれば、自分本位の発想をする人を採用したいとは思わないからです。

20代半ばでのキャリア 転換はリスクが大きい

第3がタイムイングです。人生には、次のステージに上がるタイムイングがあります。努力を重ねた人にはチャンスは自然に訪れるものです。今の会社にチャンスはないと思っているのは自分だけで、本当はチャンスはいくらでもある可能性があります。当社にはアフリカではないですが、インドに行くのならいくらでもチャンスはあります。なぜ、彼はインドに行きたいと言わなかったのか、私には理解ができませんでした。

第4が、手段を目的化している可能性があることです。アフリカで貢献するという目的を達成するためには、青年海外協力隊員になることが手段として適切なのかということですが、町からゴミを無くすためには、ゴミを拾って歩くことが最適な手法なのか？ 捨て猫を見た時に、拾って家で飼うことが最適な手

法なのか？

自分が汗を流してアフリカで実際に行動することは、掛け替えのない体験となります。しかし、その現場にとっぷりつかつた時に、人はそれが最適行動と錯覚を起こすことがあります。1人のボランティアスタッフとして活躍はできても社会を変革するリーダーになり得るか甚だ疑問です。むしろ、アフリカ行きの適任者は、私のような経営者かもしれません。現場を知り、自ら汗を流し、その体験を会社のリーダーとして、事業を通じて社会貢献するほうが良いのではないかと思いました。

それで私は、彼にインド行きを命じました。インドで事業を成功させた後なら、アフリカでも真に社会に貢献できる人になることでしよう。BOPピジ

【プロフィール】

久野康成(くの・やすなり)

公認会計士。人財開発・東京コンサルティングファーム会長兼 CEO。東京税理士法人統括代表社員。1965年生まれ。愛知県出身。滋賀大学経済学部を卒業後、青山監査法人(プライス ウォーターハウス)入所。監査部門・中堅企業経営支援部門にて、主に株式公開コンサルティング業に携わる。98年久野康成公認会計士事務所を設立。東京のほか、横浜、名古屋、大阪、インドにて「第2の会計事務所として会社を設立。経理部門へのスタッフ派遣・紹介など幅広い事業を展開し、グループ社員総数は360人に上る。著書に『できる若者は3年で辞める!』[2008年版 図解インドの投資・会計・税務の基本]『母性の経営—management therapy』(共に出版文化社)がある。

ネスがしたいなら、会社の事業として行うほうが、お金も人材も豊富に使えます。自分がやりたいことをやるのは、それからでも決して遅くはないはずです。人生の中でチャンスを見極めることは、決して簡単なことではありません。現在の職場で、チャンスが少ないからといって、簡単にキャリアを転換することはリスクが伴います。特に、20代半ばでのキャリア転換は考えものです。

(このコーナーでは、経営に関するよろず相談を読者の皆様から受け付け、実践的アドバイスとしてお答えしております)